



社会的養護の社会化フォーラムを通して、松阪地域にも子どもに関わる活動をしている団体はたくさんあることがわかりました。各団体がつながり合えるように、このコーナーで紹介させていただきます！

Vol.2 父子の会 (ちちこのかい)

社会福祉法人慈宝会心きらきら児童デイサービス事業所の「父子グループ活動」に参加する父親が主体となり発足しました。家族同士の交流や親睦会、発達障害の理解と、支援のあり方についての学習・啓発活動を行っています。防災に焦点を当てた「発達障がい児向け『インクルーシブ防災』啓発・推進事業」を実施しており、「知る・伝える・備える・つながる」という取り組みは全国的にもめずらしく、注目されています。中村さん自身も4児の父で、子どもの障がいの特性についてもとてもオープンに話してくださいました。発達障がいは多様で、必要とする支援も違ってきます。地域に出て行き、こういう子どもがいるということを知ってもらうことが必要だと考えています。「障がい者」を受け入れるのは困難でも「子ども自身」を知ってもらえれば受け入れやすくなるとおっしゃいました。住民協議会などにも積極的に参加し、つながることを続けています。様々な職業の父親たちの力を合わせて、子どもたちのために何かできるのではないかと常に考え、子どもたちの特徴を活かし合って過ごせる居場所づくりをしていきたいということでした。子どもたちの未来のために活動していきたいと話す中村さんはとても輝いていて、地域の人たちとつながり、何かあった時に助け合える関係を築いていくことは、子育てをしていく上でとても大切なことだと改めて感じました。



おしらせ **ゆきあそびツアー**
 毎年恒例のゆきあそびツアーを今年も行います。家族や友だちと思いっきり遊んでみませんか？
 日時 2月2日(土)
 行き先 奥伊吹スキー場
 参加費 小学生以上 9000円
 3才以上未就学児 4500円
 2才以下 300円

●チャイルドラインMIE (きいてほしいな...)
 子どもの心を受け止める
 18歳までの子ども専用電話
0120-99-7777
 毎週 月曜日～日曜日
 午後4:00～午後9:00

●こどもほっとダイヤル (助けて！も言える)
 子どもだけが相談できる
 18歳未満の子どものための相談電話
0800-200-2555
 毎日 午後1:00～午後9:00
 (12月29日～1月3日はお休み)



●この会に賛同し、会を支えてくださる個人・団体の方を募集しています●
個人正会員・参加会員：年8,400円 賛助団体会員：年1口10,000円 支援会員：年1口3,000円
※入会金：300円

会員数 正会員：25名 参加会員：3名 支援会員：83名 賛助団体会員：27団体 (11月末日現在)
 特定非営利活動法人 松阪子どもNPOセンター
 〒515-0084 松阪市日野町788 カリヨンプラザ1F (開所日・時間 月～金10:00～17:00)
 TEL 0598-20-8344 FAX 0598-20-8345 ホームページ <http://www.mknpj.jp/> eメール info@mknpj.jp

【賛助団体会員】(敬称略)	・医療法人 河合産婦人科	・医療法人 地主矯正歯科クリニック	・健康体操 ひまわり会
・医療法人 イワサ小児科	・医療法人 桜木記念病院	・鎮守の森を夢見る会・其二	・株式会社 富士土地
・うれしの 太田クリニック	・株式会社 阪本事務機	・東海印刷株式会社	・松阪市健康体操連絡協議会
・株式会社 SK スズキ	・ささおこどもクリニック	・東海シール株式会社	・まんのう整形外科
・大久保クリニック	・株式会社 ジェントリー	・飛岡雅子	・医療法人 南産婦人科
・おおたクリニック	・上瀬クリニック	・ナガフジ産業株式会社	・医療法人社団 鷺尾小児科
・岡田パッケージ株式会社	・医療法人 たるみ内科胃腸科	・はせがわこどもクリニック	・他一団体



KODOMO21

子どもたちがのびやかで豊かな「子ども時代」を過ごすために

Winter NO.203
 2018年12月12日
 発行元：特定非営利活動法人 松阪子どもNPOセンター

子どものためのシェイクスピア 「冬物語」バスツアー



日時 8月29日(土)
 参加者 大人11名 中学生2名 子ども11名 合計24名

今年度の子どもためのシェイクスピア「冬物語」は名古屋での開催になりましたので、バスツアーを企画し名古屋科学館とシェイクスピアの観劇とのセットで夏休みの一日を過ごしました。科学館では、2班に分かれて館内を見たり、触れたりしながら、初めて会った子ども達同士仲良く打ち解けていく様子が見えました。毎年参加している子どもの中には、将来女優になりたいと話す子どもがいました。シェイクスピアの開演前には、ステージ衣装を着て、みんなそれぞれ女優になりきっていました。演劇が始まると真剣に見入っていて、最後のステージのあいさつで舞台と一体になり出演者におじぎをしていました。毎年少しずつリピーターも増え、観ることを続ける大切さを感じています。



里親シンポジウム

ほくの親は、里親。～子どもの立場から「里親制度」を考える～



日時 10月28日(日) 13:00～16:00
 場所 三重県人権センター
 参加者 松阪地域 22名/346名
 内容 三重県知事ビデオメッセージ、里親制度の説明、県の取り組み紹介
 第1部 講演「里親家庭を経験して」 講師 高橋成貴さん
 第2部 パネルディスカッション 県内の里親家庭で育った方 3名、高橋成貴さん
 コーディネーター 浜田進士さん 子どもの権利条約総合研究所関西事務所長



第1部の講演は里親家庭で育った高橋さんのお話でした。高橋さんは里親さんの家に行った時、信じる事ができなくて反発し、幾度となくぶつかったそうです。でも、それを正面から受けとめて自分に関わってくれたことを、ありがたく思っていると語られました。里親家庭で育った方は、里親家庭での日々の何気ない生活の中で、自然に交わされる「おはよう」「いってらしゃい」「おかえり」「おやすみ」等の会話や、毎日自分を見守ってくれる人がいること、その積み重ねた年月がかけがえのないものになっていると話されました。里親さんの実子で、預かった子どもたちと共に暮らした経験のある方は、子どもが家に来た初めての日は、みんな何かに怯えて部屋の隅で小さくなって座っています。その子どもがいかに大きなものを抱えているかを想った時、胸が張り裂ける思いがして、何があってもこの子を大切にしていこうと思えますと言われました。それぞれの里親家庭は年代も状況も様々ですが、子どもへの愛情や思いはとて深く、そのことが子どもたちに伝わっていると感じました。現在、三重県では各中学校区に1家庭の里親さんをめざして取り組んでいます。子どもが安心して育つために、私たちにもできることがあります。否定せず寄り添う人がいれば人は生きていけるんですと言われたファシリテーターの浜田さんの言葉が胸に残りました。



●武四郎さんを知ろう

日時 9月2日(日)
 低学年 10:30~11:30
 高学年 13:30~14:30
 参加者 15名(低学年)
 8名(高学年)



松浦武四郎記念館で学芸員の山本命さんにお話を聞きながら、松浦武四郎について学びました。低学年の子どもの中には、説明を聞いて、湧き上がる気持ちを発言したり、入り口にある北海道の地図にある漢字を探したり、日本中を歩いた事を聞いて「すごい」と叫んだり興味を持って聞いていました。高学年の時には、見学に来ていた大人も一緒に館内を歩いて、子ども達が熱心に聞いて答えている姿に感心していました。山本さんの丁寧な説明に子ども達も武四郎のいた世界に引き込まれていました。



松浦武四郎生誕 200 年記念事業

●まちをあそぶ ～武四郎さんをさがせ～



✦ **低学年 (1~3年)**
 日時 10月27日(土) 14:00~16:30
 参加者 39名 大人スタッフ 15名

✦ **高学年 (4~6年)**
 日時 10月28日(日) 14:00~16:30
 参加者 19名 大人スタッフ 10名

今年度は、「まちをあそぶ」事業を松浦武四郎生誕 200 年記念事業として武四郎の誕生の地松阪市小野江町で開催しました。(特)松阪子どもNPOセンターは、子どもにとってあそびが大切だと考えています。「まちをあそぶ」事業は子どもと大人が共に遊び合い、関わり合う中で、一人一人が自分らしく表現することを目指し、豊かな遊び環境および豊かな地域社会をつくり出すことを目的としています。参加の申し込み時から、ワクワクしてほしいと通行手形を渡しました。武四郎誕生地保存会の方々に両日、参加協力していただきました。

午前中、大人スタッフは表現ワークショップをして身体と心をほぐしました。午後からは子ども2~3人と大人スタッフ1人のグループを作りました。その後、アフタフバーバンによる導入のお芝居に入り、いよいよまちに出ていきます。グループ内でルールを作り、指令されたことを達成していきます。まちの住民の方に「イランカラブテ」(アイヌ語「こんにちは」と合言葉をかけて手掛かりが書いてある紙をもらい、その住民の方に話しかけていろんな情報(例えば、何歳くらいなのか?好きな食べ物?)を持って、武四郎さんの生家に向かいました。最後には、武四郎さんが待つ真覚寺に到着しました。真覚寺では大人スタッフ対子どもでチャンバラをした後、忍者修行のご褒美として、巻物を授かりました。



午前中、まずは大人スタッフの表現ワークショップから



風呂敷を使って忍者になり、始まり始まり!



見つかったら大変だ。黒マントから逃げろ!逃げろ!



『わしが松浦武四郎じゃ!よくぞ、ここにたどりついた。えらかったの〜』
 と言うと...
 子どもたちからは、「本物だ」「レジェンドだ」と声上がる

まちで出会った人に話しかけて、得た情報を元に似顔絵を書いて、いざ発表

武四郎さんは、どこにいるのだろう?
 みんなが集めてきたまちの人がくれた情報をもとに、謎を解き明かす



武四郎生家前で作戦会議

大人スタッフとの戦いだ!
 絶対 勝つぞ!!エイエイオー!



子どもたち、よくぞ忍者修行をやりとげた。褒美として忍者心得を記した巻物を授けるぞ



「まちをあそぶ」を開催するときに、必ず地域の方々に協力をお願いします。今回も武四郎誕生地保存会の方々に伊勢街道を街人として歩いていただき、子どもたちの声かけに快くやりとりをしていただけました。子どもたちもこのあそびの中で、人とのコミュニケーション力・創造性が豊かになったと感じます。武四郎さんゆかりの地でのあそびは、子どもの心に響くものになったことでしょう。